

定例教育委員会会議録

(平成30年9月5日開催)

岡谷市教育委員会

定 例 教 育 委 員 会

日 時 平成30年9月5日(水)

午後1時30分

場 所 6階 603会議室

署名委員 太田委員、藤森委員

【 次 第 】

○ 開 会

○ 教育長報告

○ 議 題

1. 来年度の予算編成方針について【別添資料】 (教育総務課)

2. 新体力テストについて【資料No.1】 (教育総務課)

3. 魅力と活力ある学校づくり推進プランについて【資料No.2】 (教育総務課)

○ 報 告

1. 第42回全国高等学校総合文化祭(2018信州総文祭)の結果について【資料No.3】
(教育総務課)

○ そ の 他

・行事等について(各課)

・その他

【次回開催予定】 10月9日(火) 定例教育委員会 9時30分 2階 202会議室

出席委員

教育長 岩本 博行、職務代理者 草間 吉幸、教育委員 太田 博久、教育委員 高木 千奈美、
教育委員 藤森 一俊、教育委員 小平 陽子

事務局(説明員)

教育部長 吉澤 洋人、教育部教育担当参事 三村 靖夫、教育総務課長 帯川 豊博、
教育総務課主任指導主事 竹内 良之、生涯学習課長 小池 秀昭、スポーツ振興課長 小河原 義友、
教育総務課統括主幹 山田 勝由紀、教育総務課主幹 小口 明彦、教育総務課主査 保科 圭吾

<会議録>

○開 会

岩本教育長： 皆さんこんにちは。今日は台風一過のきれいな青空が出ている訳ですが、昨日の台風21号は本当に大変でした。岡谷にもだいぶ近づいて、かなり風雨も強くて本当に心配しましたが、お陰様で子ども達全員無事に登下校できました。昨日は、給食を食べて1時30分集団下校で帰りました。ちょうどその時間に風雨が弱まって帰るのにもちょうどよかったのかなあと思っております。また、低学年の子どもの中には、家に帰っても一人で留守番ができない子どももいますので、そういった子どもについては学校でお預かりして保護者の方に迎えて来ていただくという措置をいたしました。各学校で数名そういった子どもがいた訳ですけども、いずれにしても本当に無事にみんな帰宅ができてほっとしているところでございます。今朝も夜中の状況でどうしたらいいのか心配した訳ですけども、幸い風雨もおさまり、河川の増水等も比較的少なかったということで通常どおりの登校といたしました。しかし、全国をみますと、亡くなった方が11人、それから怪我をされた方も大変多いですし、色々な被害があったと報道されております。あらためてお悔やみとお見舞いを申し上げたいと思います。今後もこういった台風がいくつかすることが予想されておりますが、これからも子ども達の安全を第一に、しっかりと危機管理意識を持って臨んでいきたいと思っております。

それでは、只今より定例教育委員会を始めたいと思っております。本日の署名委員は太田委員さんと藤森委員さんをお願いをいたします。最初に私から教育長報告をさせていただきます。

○教育長報告

本日は、数点ございますので報告をさせていただきます。

1. おかやコドモテラスについて

夏休み期間中の8月9日（木）に新規事業として実施いたしました「おかやコドモテラス」についてご報告いたします。

この事業は、様々な家庭環境で育つ子どもたちの成長を、身近な地域で支援する子どもの居場所づくりのきっかけとなるよう、官民連携のモデル事業として、市関係課の連携に加え、子育てに関わる各団体の皆さんに協力していただきながら実施したものであります。

今回は、市内の小学生60名と保護者10名の参加がございました。子ども課が主体となって実施したわけですが、教育委員会では、教育総務課と生涯学習課が関わる中で、遊びと学び、そして悩み事相談といった多くの分野で、職員はもとより、ボランティアの皆さんの協力をいただきながら取り組みをいたしました。

私も当日会場に行き、様子を拝見いたしました。学習の場であります「まなびテラス」では、元教員の方が先生となり、子どもたちは、夏休みの宿題や自由学習を、先生に教わりながら真剣に取り組んでいました。

遊びの場であります「あそびテラス」では、低学年は、放課後子どもの居場所づくりのスタッフ（神明小）5名に講師をお願いし、身近なものを使った工作を実施いたしました。トイレットペーパーの芯を使った万華鏡や牛乳パックを使った紙飛行機作りに取り組み、自分で作った万華鏡を興味深げに覗きこんだり、紙飛行機を力いっぱい飛ばす姿は、微笑ましい光景でありました。高学年は、まなびテラス同様、元教員の方に先生をお願いし、理科実験を通して学べる「わくわく科学教室」を実施し、ダンボールを使った空気砲や一円玉を水に浮かれる実験などに、子どもたちは、身を乗り出し熱心に取り組んでいました。この「わくわく科学教室」には高校生2名を含め4名のボランティアの方が先生のサポートに入ってくださいました。

悩みごと相談の場でもあります「なやみ相談テラス」では、子ども総合相談センターの職員が相談員として参加し、家庭の養育に関することや、学校生活に関する相談が数件ございました。

お昼は、夏野菜カレーや塩イカの酢の物などを子どもも大人も一緒になり、賑やかに話をしながら、楽しい食事の時間を楽しんでおりました。

参加した子どもたちからは、「宿題でわからなかったところを見てもらえて嬉しかった」とか、「夢中で遊ん

だ！」とか、「カレーが美味しくて3杯も食べた」などの感想がありました。

同伴された保護者からも「いろいろな体験ができて良かった」といような感想が寄せられました。

今後につきましては、関係部署が連携し、今回の状況を踏まえ、より効果的な事業の実施方法など、地域に広めるためのノウハウや課題等の把握に取り組んでいきたいと思っております。

2. 信州総文祭について

去る8月9日（水）から8月10日（金）の2日間、カノラホールにおいて第42回全国高等学校総合文化祭の放送部門が開催されました。全国各地から各都道府県の代表校約1,500人が岡谷市を訪れ、アナウンス部門、朗読部門、オーディオビジュアル部門、ビデオメッセージ部門、CM部門の5部門において、発声技術と映像作品を披露していただきました。特に県内開催記念に特設されたCM部門では、参加45校が諏訪6市町村をそれぞれ取材し、6市町村をPRするCMを大会期間中に作成しました。

大会開催にあたり、思い出に残る大会になるように教育委員会を中心に市を挙げておもてなしをしました。参加した生徒や先生方からも「思い出に残る良い大会だった。窓口や取材先でもとても良くしていただき、大変感謝している。」といった声を頂きました。

この結果等につきましては、この後、報告事項におきまして報告させていただきます。

3. 市内小中学校完全閉庁日の実施状況について

夏季休業期間中の8月13日（月）から8月16日（木）の4日間、学校に教職員を置かない完全学校閉庁を実施いたしました。事前に保護者や地域の方の理解をいただくための周知に努めたこともあり、この期間中、市教育委員会には1件の問い合わせ等もなく無事に実施することができました。

今回の実績を踏まえて、年末年始にも完全閉庁日を設定していきたいと考えております。今後も引き続き、市内小中学校の勤務実態について把握しながら、教職員の負担軽減にむけた取り組みについて、しっかりと考えてまいりたいと思います。

4. 広島平和体験研修について

今年度で18回目となる平和体験研修が、8月5日（日）から7日（火）に行われ、市内4中学校の2年生の代表20人が広島を訪れました。

6日には原爆投下に合わせて行われた平和記念式典に参列し、厳粛な雰囲気の中、世界各国から訪れた多くの参列者とともに、戦没者を追悼し、平和を祈りました。

現地では事前に各自で設定した学習テーマをもとに、原爆ドームや広島平和記念資料館等の施設を見学、被爆証言者の講話を聞き、平和についての学習を深めることができました。

8月20日（月）に行われた解団式では、参加者が研修での感想を発表し、それぞれが広島で実際に見て、聞いて、肌で感じた、戦争や原爆の悲惨さを、二度と繰り返さないよう、学校や家族、地域の人達に伝えていくことなど、自分達ができることから始めていきたいと、強く決意することができました。暑い中での研修でありましたが、体調を崩す生徒もなく大変有意義な研修となりました。

5. 県宝の指定について

岡谷市の縄文土器が県の宝、県宝の指定についてであります。

県内で出土した縄文土器158点が、「信州の特色ある縄文土器」として、まとめて県宝に指定される見通しとなりました。

岡谷市では、顔面把手付深鉢型土器をはじめ、19点が含まれております。おりしも、縄文文化は日本遺産にも認定され、また東京でも大きな縄文展示がされまして、縄文文化のブームとも言われている向きもございますが、またひとつ関心を高めていただく大きなきっかけとなりました。

教育委員会といたしましても、さらに積極的なPRに努めてまいりたいと考えているところでございます。

6. 地域発元気づくり支援金の採択について

美術考古館の5周年記念事業の一部が、県の補助金であります、「地域発元気づくり支援金」に採択されました。

事業の内容でございますが、ひとつは、若手作家の美術作品を展示する「若手アーティスト育成展示」、もうひとつは土器の展示といたしまして、既にご案内いたしました「火焰と水煙の縄文土器展」と「縄文中期の顔面把手大集合」と題した展示であります。

「若手アーティストの育成展示」につきましては、将来性のある若手作家に美術考古館の展示室を提供して、館長らの指導を受けながら作品の展示をしてもらうものです。作家活動として経験をふんでもらい、今後の作家活動に生かしてもらうもので、9月中旬まで作家を募集しているところであります。

元気づくり支援金という名前のとおり、大勢の人に元気になっていただけるような取り組みをしていきたいと考えております。

岩本教育長： 以上、私からの報告とさせていただきます。ご報告申し上げた点について、何かご質問、ご意見等ございましたらお願いをいたします。

よろしいでしょうか。それでは、本日の議事に移りたいと思います。

○議 題

1. 来年度の予算編成方針について (教育総務課)

岩本教育長： 議題1について事務局より説明をお願いします。

<事務局より来年度の予算編成方針の概要について説明。>

岩本教育長： 今、事務局から説明がありましたが、ご意見、ご質問等ございましたらお願いいたします。

太田委員： 昨今話題になってますし、教育委員の立場だと市民の皆さんからどうなのかと聞かれる部分もあり、予算にも関わってくるのでお聞きしたいのですが、小中学校へのエアコンの設置については、来年度岡谷市として考えるということはあるのでしょうか。重点施策の教育環境の充実という部分にも絡んでくると思いますので、状況をお聞かせください。

事務局： 昨年度、魅力と活力ある学校づくり推進プランのハード版を作りました。その中で学校環境を快適なものにしていけないといけないという話の中でエアコンと給排水施設（トイレ、洗面所）を精力的にやっていきたいということで盛り込んだところです。それを受けて今年こんな状況になったものですから、市長からもお話がありますけども、やるにしても財源がかかるので国・県に財源の手当てをお願いしていきたいということで動いているところです。教育委員会におきましては、学校で教室の温度なんかも測った結果をいただいておりますが、やはり心配していたとおり外気温が30℃超えると室内も30℃になるということも把握しておりますので、来年度の予算の中で、もしくは、本年度の中で市長の方からどういう指示がでるか分かりませんが、いつでも対応できるように教室数につきましても今把握しているということです。

草間職務代理者： それについて、岡谷市では設置費用がどれだけかかってラーニングコストがどれくらいという試算は作ってあるのでしょうか。

事務局： イニシャルコストだけです。だいたい1教室にエアコン1台設置すると150万くらいかかります。それに教室の数にもよるんですが、普通教室が小中合わせて160くらいで、特別教室を合わせますと500弱になるものですから、ざっと150万の500で計算するとですが、それがイニシャルコストになるのかなあと考えています。

草間職務代理者： 一般の人は、国と県の補助が出れば、市は当然エアコンの設置をすると思っていますが、その辺についてはどうでしょうか。

事務局： 財源の内訳がはっきりしていないんですが、既存の制度ですと1/3国庫補助になりますので、残りの2/3が単費という形で、それに地方債がつくかどうかですが、どちらにしま

しても耐用年数が短い施設ですのでどのくらいの起債が付くのかはまだ分かりませんが、かなり厳しい対応になるのかなあと考えております。今年の夏は、一般のご家庭でもエアコンを付けるのに業者さんがいなくてなかなか工事にならなかったという話ですが、今回この動きが全国一斉に動き出しますとどんな形で手配できるのかという心配もしております。

岩本教育長： 諏訪市では見積で7、8億ということです。だいたい諏訪と同じような規模ですので、最低でもそのぐらいはかかるのかなあと考えております。それからエアコンはラーニングコストが高いので、全教室一斉に使うとなると大変なことになるのかなあと考えていますので、そういう設備にもお金がかかるのかなあと考えています。

草間職務代理者： 公共施設なので一斉ということが前提なんです、例えば湊小の2階みたいに暑くてどうしようもないというところから優先的に付けるという配慮はできないのでしょうか。

事務局： 市全体だと保育園についても考えていかないといけないので、全体的に見てやっぱり熱中症に弱い子どものところから順次対応していくという優先順位をつけざる得ないのかなあと考えております。

岩本教育長： 小学校では低学年を中心という形になってくのかなあと考えています。湊小の2階は承知しておりますので、そういうところは考えていかないといけないのかなあと考えております。いずれにしてもこれは大変大きなことで、エアコンを入れればいいのかという部分もあって、エアコンの使い方、風を引いたりとか使い方次第かなあと考えておりますので、そういったことの周知徹底も含めて今から準備していかないといけないのかなあと考えております。

草間職務代理者： 西中の大規模改修が終わったあと、各学校の改修等については来年度から手を付けていくのでしょうか。

事務局： 昨年の段階で策定した魅力と活力ある学校づくり推進プランのハード整備版が学校施設の長寿化計画にあたるんですが、危険度の高いところから優先的にということになっておりまして、実施計画の中では32年から東部中学校をやっていくということになっておりまして、その後順次優先順位をつけながらやっていくことになります。

小平委員： 公共施設の改修についてということで、施設ごとの統廃合というのは、前回の図書館の話の中で市民の皆さんがよく利用できるように改善点がないのかなあと考えたときに予算が必要でなんでも好きなようにできる訳ではないと思ひまして、今現在の状態として、統廃合を進めている場所はどこに施設があるのでしょうか。

事務局： 今、企画部の中に公共施設に関わる担当の部署があります。そこで公共施設等総合管理計画という計画を作りまして、29年度から進めて庁内で検討しているんですけども、なかなか色々なしがありまして難しいというのが実態です。教育委員会では、一つの検討材料として検討して欲しいと言われたのが、塩嶺閣と塩嶺野外活動センターを統廃合できないかという宿題をいただいているんですけども、それもなかなか難しいということになっています。

小中学校につきましては、先程申し上げた魅力と活力ある学校づくり推進プランの中で、5年間の将来児童生徒数を推計しているんですけども、その中では、1校あたり100人、それから1クラスあたり10人という基準を満たさない学校が出てこないものですから、5年間は、11校は存続していくということで方向性を出しているところです。

藤森委員： 先ほどのエアコンの件については、私も気になっておりましたが、太田委員さんにご質問いただきましたので分かりました。重点施策3項目の中の1番目に子育て教育環境の充実ということがうたわれていることは大変ありがたいことだと思ひております。教育というのは将来のまちづくりの中でそこを担っていく人材を教育していくということですので、とても大切なことだと思いますし、そういうところに重点的に予算を割いていただけるということは評価をしたいと思います。是非そんな中で、教育委員会の事務局として色々な課題とか必要なことがあるかと思いますが、バランスよく見ていただく中でできる限り教育環境の充実であったり、子育てといったところに対して良い形で予算がつくような努力を是非お願いしたいと思います。

岩本教育長： 予算につきましてはこれからも色々な意見に耳を傾けながらより良い施策を立案して実施をしていきたいなと思っております。それでは続いて議題2に移りたいと思っております。

2. 新体力テストについて (教育総務課)

岩本教育長： 議題2について事務局より説明をお願いします。

＜事務局より平成29年度の新体力テストの結果について説明。＞

岩本教育長： 今、事務局から説明がありましたが、ご意見、ご質問等ございましたらお願いいたします。

高木委員： 7ページ、8ページの表の見方ですが運動部クラブと運動には何が含まれるのでしょうか。小学生の運動部クラブは社会体育ですか。それから運動をしたというのは、おにごっこみたいに体を動かす遊びも含まれるのでしょうか。

事務局： 運動部クラブにつきましては、学校の運動部や地域のスポーツクラブになりまして、運動については学校の体育の授業以外で体を動かす遊びを含む運動した場合となっております。

太田委員： 今回、平成29年度の新体力テストとなっておりますが、この新はどういう意味合いがあるのでしょうか。

事務局： 昭和36年からスポーツ振興に向けて実施されているテストですが、国民の体力の現状がだいぶ変わってきて、そういった部分を踏まえた見直し平成8年から色々な人によってされて、11年から新体力テストという形で名称も種目も変更されているようです。

太田委員： 先ほど体力アッププログラムの効果が出ているのではないかとのお話がありましたが、私も是非そこは推進をしていただければなあ、このデータを拝見して思います。高木委員さんからもご指摘があった7ページの表ですけど、運動クラブの所属状況をみますと結構入っているんですね。入ってやっているんだけれども、例えば、小学校6年生とか中学校1年生は全国と比べるとおどろくほど差がみられるので、色々な競技が中心で社会体育的なこととか運動部なんかもあるとされていると思うんですが、それぞれの競技って野球なんかは典型的ですけども偏った体の使い方をすると思っておりますので、昔がよかったとは必ずしも言いませんが、自然に生活をしたり遊んだりする中で鍛えられてきた基本的な体力みたいなものが今は培うことがなかなかしづらい環境の中で、何かある特定の競技だけを一生懸命するというようなところがあるとしたらこの形に出ているのかなあと思います。そうするとやっぱり小さいうちからある程度基本的な体の使い方とかに結びつくような体力アッププログラムというのを有効に使えるように意識的に取り入れていくという必要性がここからも見て取れるのかなあと思いますので、是非また推進の方向で進めていただければと思います。

小平委員： 今、太田委員さんが言われたことで思ったんですけども、偏った体の使い方という意味で、部活動もそうですが子ども達の選択肢が少ないと思うので色々なスポーツに触れる機会を作ってあげられるといいんじゃないのかなあと思います。

岩本教育長： なかなか部活動の中で種目を増やしていくというのは非常に困難だと思います。先生の数は決まっていますので、社会体育の方でそういった部分をカバーしながら、本当に子ども達がやりたい種目を専門家がついてしっかりと伸ばしてあげられるようなそういう体制を作っていくということがこれから私共に求められているのかなあと思っております。

藤森委員： 子ども達の成長期の体力という意味ではもちろん運動習慣とかは当然重要であると思いますし、今取り組まれている低学年の体力アッププログラムの成果というのも恐らくデータから見て取れるのかなあと思います。あと、やはり生活習慣という部分が子どもの成長にとってはとても重要だと思います。例えば、朝ご飯を食べるとか、しっかりと睡眠をとるとか基本的なことをできるだけ最適なものにしていくという努力も合わせてしていく必要があるのかなあと思いますので、子ども達の生活習慣というところにもしっかりとフ

一カスをしていただけたらいいのかなあとと思います。

岩本教育長： こういった結果が数字で出ると非常にインパクトが大きいかなあとと思います。こういった実態を頭の中に入れながら先生方と体育授業、或いは部活動、或いは学校外の運動等についても保護者とも勉強しながら進めていく必要があると思います。いずれにしても社会に出てからも通用するような体力というものはしっかりと子どもの時から付けてあげるということは非常に大事なことであり、これからのこういった調査を大事に受け止めながら頑張っていきたいなあと考えております。

それでは議題3に移りたいと思います。

3. 魅力と活力ある学校づくり推進プランについて (教育総務課)

岩本教育長： 議題3について事務局より説明をお願いします。

＜事務局より魅力と活力ある学校づくり推進プランについて説明。＞

岩本教育長： 今、事務局から説明がありましたが、ご意見、ご質問等ございましたらお願いいたします。

高木委員： 2点お願いがありまして、まず1点目ですけれども学校図書館の活性化というのを施策の重点として取り組んでくださるということは大変ありがたきことだと思っております。6ページなんですけれども、「学校図書館の活性化というところに読解力の向上、言語活動の充実など、子ども読書活動の重要性を踏まえ」という文言なんです、第3次子ども読書計画にも関係してくると思います。前々から気になっていることが一つあって、それはこの「など」に入るところだと思うんですが、学校図書館に限らず図書館の意義に読解力や言語活動というものを支えるものに情操教育があると思うんです。その情操を育てるところが図書館の働きとしては非常に重要な部分ではないのかなあと考えて、ものづくりを支えていくものは、情操で情緒の力が根底にあって、読解力とか言語活動が充実していくと、ものづくりを支えていく力が生まれてくるのではないかなあと考えていますので、何かそういう情操教育に関係した文言を「など」というところに盛り込んでいただいて、図書館の働きに岡谷市として加えていただけたらなあと考えております。ただ、15ページ、18ページの取り組みの活動としては読書センター、学習センター、情報センターとしての機能強化ということになっていくと思いますので、その取り組みの中には情操教育は入ってこないと思いますが、図書館の機能として、働きとして、その部分を大切にしていくということで盛り込んでいただけたらありがたいかなあとと思います。

もう1点は、9ページの地域に開かれて学校づくりの推進の細施策4なんですけれども、社会貢献活動や地域の行事に児童生徒が参加するということはとても重要なことで、是非これからも推進していく必要があることだと思っておりますが、その反面社会貢献する活動や地域の行事は往々にして学校の教育課程の授業時間以外のものが多く、休日に催されるものが多いので教員の働き方改革と合わせて教育委員会としてどんな風に取り組みをしていけばいいのかなあと考えています。市民としても学校の子供達に是非参加して欲しいということでお願いにあがりたい行事も多々あるのですが、なかなかそこを考えてしまいますとお願いにもいかれないということもありますので、教育委員会としてどんな風にそこを考えていったらいいのかということをもちょっと明確にしていっていただけたらいいかなあと考えております。

岩本教育長： 情操教育という言葉はちょっと使えないかなあとと思うので、豊かな感性ということですかね。読書をすることで最終的には豊かな感性というような文言ならいくつか入るのかなあと思います。大事にしていきたいと思っております。

それから子ども達の参加についてはちょっと難しいところですが、検討してみたいと思います。ありがとうございます。

藤森委員： 大変すばらしい計画という印象を受けましたし、是非岡谷ならではの学校づくりということで進めていただけたらいいなあとと思うんですけれども、基本的に岡谷市内の学校

に勤務される先生方は県職ということで何年かのサイクルで転勤をされたり、或いは市外から着任されたりということは普通にあることだと思いますが、そういった先生方が異動されていく中で、こういった岡谷市としての教育の学校づくりのプランというのをいかに現場の先生方に理解していただいて、実践していただけるのかというところに関しては、どういった施策を考えているのでしょうか。

事務局： 大事な部分だと思っておりますので、これから考えていかなければいけないと思います。教育大綱も同じ形で校長会に関わっていただいて作った経過があり、校長会もしっかりそれを理解したうえで先生達に広めていっていただきましたので、今回もこのプランを作るにあたって検討委員会の中にも校長会長さんに入っているんですけども、校長会にも関わっていただく中で先生達にしっかりとご理解をいただいたうえで、校長会の度にご意見をいただきながらで作っているような状況なので、そんなことを踏まえてこれからも校長会にお願いをしたり、研修会でも市の取り組み、姿勢なんかも教育大綱と合わせて周知して、是非ご理解をいただきたいと思っております。

藤森委員： スタンダードカリキュラムの中にも「ひと・もの・こと・ところ」という岡谷ならではのことも市外から来られた先生方にはよく知っていただく必要もあるんじゃないかなあとと思いますし、先程拝見したロボットの授業なんかも竹内先生が授業されていたけども、ああいった形で授業ができる先生方を育てていくということもすごく重要になってくると思いますので、是非しっかり考えていただいた中で形になるようなプランしていただければと思います。

私も仕事柄ものづくりなので先ほどのビデオなんかも興味深く見させていただきましたし、岡工の生徒さんも一緒になって協力してくれていてとても素晴らしいなあと感じました。岡谷はものづくりのまちということをよく言われていますが、実際にロボットを作って体験してみるということも、子ども達にとって有意義なことだと思いますが、できれば何で岡谷はものづくりのまちなのかということで、岡谷のものづくりがどんな風にすごいのかという視点も少し取り入れていただいて、子ども達に岡谷のものづくりはこういったものなんだということが、もちろん学年によって違ってくると思いますが、理解できるようなことをやっていただければなあという風に思いますし、市の工業振興課さんでもものづくりフェアとかをやって小学生とか中学生が見学に来ていただいているんですけども、実際に工業の現場の中では、そういった教育的視点というのがややすると少し意識として足りないなあと感じる場面がありまして、逆に言うと工業系の企業だとかそういったところに働きかけていただいて、岡谷の教育としてこういった取り組みをしているんだというところをどんどん情報発信したり、横の連携を取っていただくと協力していただける企業はいっぱい出てくるのではないかなあとと思いますし、より充実したものになっていくのではないかなあと感じましたので、是非そんなところもよろしくお願いしたいと思います。

太田委員： 一つは質問です。今年度までの第4次総合計画の後期の5カ年のものと比べた時に、特に大きく変わったところはどの辺になるのでしょうか。

事務局： 全体が一番大きな重点項目のところは、今、4項目掲げているんですが、前回の協議会において教育大綱の学校教育重点項目を5つから4つに整理をさせていただきたいというお話をさせていただきましたが、それ毎に細施策を組み換えてございます。組み換えていますが施策と細施策の中身は変わってはおりません。

太田委員： そうすると、今年度までのものから何か抜けたものがあるって、新たに加わったものがあるというものはそんなにはないということでしょうか。

事務局： ほとんどなくて、今までの教育大綱の重点項目で検討してきたものはすべてぶら下がっている形になります。

太田委員： そうした時に、先程ちょうど出た体力テストのデータを拝見して非常に衝撃を受けましたので、今後5年間で子ども達の体力という部分はとても重要なことだとあらためて感じました。先程お伺いした重点項目3の施策5健康教育の推進と体力向上がありますけども、細施策の中で先程課題として出たような子ども達の将来に渡る体力アップを大切にいくんだというニュアンスが若干少ないのかなあと感じました。これは大きい課題として今日

もこの場で提示されたのかなあとと思いますので、そういった部分を上手く組み込んでいただいて、今後の5カ年でその辺もしっかりとした形の何か基礎付けのようなものが進められれば、だいぶこの先変わっていくのかなあとと思いますので、ご検討いただければと思います。

事務局：今回、議題を挙げるにあたり、分析をしていく中でこんなに深刻なんだということをあらためて私も感じまして、学力と体力というのは本当に重要な柱となる部分かなあと感じました。

太田委員：残念なことと言うのはもしかしたら語弊があるかもしれませんが、例えば、家庭とか地域社会とかその辺で幼少期の頃から何かできていればということでしょうけど、社会情勢の中でなかなかそういったことか難しいということになると、ある程度学校教育が意識的に担っていかなければいけない課題になるのかなあとという気もしましたので、是非ご検討いただければと思います。

岩本教育長：考えてみると知・徳・体のバランスの取れた子どもということのを大事にしてきている訳です。私達の計画の中では知・徳のところについてはかなり重点を置いてやっているんですが、やはり体というところについては、やよするとちょっと重点が薄いかなあと感じますので、できる限りそこら辺ももう少しカバーして文言も入れていきたいと思っています。だいたいこの結果を保護者、子ども達自身に見てもらうだけでも少しは違うのかなあと感じますので、そういうようなことも含めて体ということについてももう少し知恵を絞っていきたいと思っています。

草間職務代理者：多分これからの10年を考えた時に、教育理念にある共生社会というのがますます進んで行くと思います。それで10ページの特別支援教育の充実の中にインクルーシブ教育充実という部分がありますが、岡谷の今の教育体制で子ども総合相談センターの力が十分に発揮されて特別支援教育の充実が進んで行き、今後10年間の通常学級と特別支援学級の並びを考えていくと特別支援教育の充実とインクルーシブ教育の充実は、並列でもいいような気がするんですがその辺はどうでしょうか。

岩本教育長：特別支援教育とインクルーシブ教育はイコールではないので、だから並列にして大事にするというのは正しくそのとおりだと思います。インクルーシブ教育の考え方なんかは先生方もしっかりと受け止めてくれるようになってきています。あとは保護者、地域の理解ですね。そういった点については行政の責任としてももう少し周知していくようなことも必要かなあと感じます。また検討していきたいと思っています。

小平委員：全部きめ細やかで、今年初めてこういうものを拝見させていただいたんですけども、隅から隅まで行き届いたような感じに作ってくださっているし、そのように考えてくださっていて教育委員のみなさんや市役所のみなさんが今までこうやって作ってくださっていたんだなああとあらためて感じて、ものすごく感謝の気持ちを感じました。実際に文言は文言で分かったんですけども、具体的に何をしているのかなあというところで、分からないところがいくつかあったんですけども、いじめ根絶子ども会議は具体的にはどのような活動がされていたのか教えていただけたらと思います。

事務局：いじめ根絶子ども会議は、岡谷市いじめ防止対策推進委員会というのがありまして、その下で子ども達が自主的にいじめを絶対にゆるさないという運動を展開しております。いじめ根絶子ども会議というのが1から4までありまして、学校でそれぞれ作り上げて、学校活動の中で標語等を作る中で1から4までのステージを踏んでいくんですが、最終的には12月に諏訪湖ハイツで全小学校と全中学校共同でそれぞれ部会を持っていじめを根絶していくんだという共同メッセージを作る活動をしております。子どもが主体的になって生徒会を中心になって、そこから代表者が出てきていじめについて討議をして、いじめを絶対にしない、ゆるさないということをずっと続けているんですが、そういった活動がいじめ根絶子ども会議というものです。

小平委員：分かりました。もう一つは家庭機能を補完する学びの場の提供なんですけども、具体的にこれはこういう場が作られているのでしょうか。家庭機能を持つということは色々家庭に事情を抱えている人達には落ち着いて学べたり、家庭の雰囲気に近い場が必要で大事なことで

かなあとと思いますが、具体的に行われているのでしょうか。

事務局：これは、全国的な課題な部分があって、貧困対策といいますか国の施策として教育振興計画の中で盛り込んでいるものになります。やはり今だと長期欠席をされていて、なかなか学校に来られない子どもを放課後誰もいない時に学校に来て先生達がみていただいたりとかしている部分があるんですが、先生達の負担を考えると、本当は家庭の力をつけたり地域の人達に担っていただく中でそういった機能を補完する場を将来的には提供できればいいかなあという思いの中で、悩みですとか色々な支援ができる場の提供というのも一つ考えていかないといけないかなあと思っております。

小平委員：もう一つはスケートを活用した授業とありますが、具体的に岡谷の子ども達だけ特別に強化しているということがあるのでしょうか。

事務局：市の中に施設があるので、できた時から積極的に小学校1年から6年生まで年間6回授業を行うとかかなりの回数を実施してきた経過があります。子ども達の授業数が増えていく中で負担になる部分を少しずつ減らしてきた経過もございますけれども、スケート発祥の地というところを活かしてスケート文化や歴史を学びながら子ども達にスケートで体力づくりをしていこうという特色ある取り組みだと思っております。

事務局：中学生にはアスリート養成講座という形で全国大会などの出場を目指して力をつけていくというメニューもございますので特色ある取り組みだと思います。

小平委員：アスリートを目指す必要が必ずしもあるかというそうではないと思いますが、すごく良い環境ってことですね。

最後に地域の人材発掘についてなんですが、この間新人教育委員研修に行ってきたして、色々お聞きしてきたんですが、自分が貢献できることって何かなあというも思う訳ですけども、具体的には先生達の負担を軽くしたいなと思いますし、かといって子ども達に色々な場を提供していきたいなとすごく願っているんですけども、市民の方でセミプロといいますか趣味が高じたって方達もいらっしゃるような気がして、私も絵とかデッサンに関しては人に教えられるということもあったりするんですけど、そういう地域の人材と学校をどんな風に繋げていくのがいいのかなあと思っています。やはり色々な責任問題とかもあると思いますので、どういう風に動いていくのが望ましいのでしょうか。

事務局：来年度予算に向けてこの地域の人材という部分は、今、小平委員さんが言ったように先生方の働き方改革の学校の学習支援であったり、あるいは地域の高齢者で色々なノウハウ持っている方もいらっしゃるので、その方の生きがいですとか健康寿命の延伸とかにも繋げるように、両方にとってメリットがあるような形になればいいなと思っています。例えば、学校が望んでいるものをリストアップして、地域の人材の方に登録してもらうような、ボランティア登録制度みたいなものができて学校と那些人達が繋がるような仕組み作りができたらいいなあという風に思っております。また来年の予算に向けてそんな施策も展開できるといういなあという思いがあります。そうすると地域の人材の方も子ども達も両方が良い形で繋がっていただけるのかなあと思っています。

岩本教育長：今、小平委員さんのお話の中で教育大綱には用語集が付いていますが、このプランには用語集は付きますか。

事務局：予定はなかったのですが、付けた方がいいと思います。

岩本教育長：市民の皆さんにより分かっていただけには、今聞かれたような中身を簡単に説明するだけでも、とっつきやすくなるのかなあと思います。ちょっといいヒントをいただきましたので、検討をしてみたいと思います。

まだまだいくらでも湧き出てくるような気がするんですが、まだ時間がありますので是非お気付きの点などがございましたら遠慮せずお寄せいただきたいと思います。今日はとりあえずここで区切りをしたいなと思っております。ありがとうございました。

それでは、議題は以上でございます。次に報告事項に移りたいと思います。

○報 告

1. 第42回全国高等学校総合文化祭（2018信州総文祭）の結果について （教育総務課）

岩本教育長： 報告事項1について事務局より説明をお願いします。

＜事務局より第42回全国高等学校総合文化祭（2018信州総文祭）の結果について説明。＞

岩本教育長： 今年は、夏の甲子園に日本列島が燃え上がって感動があった訳ですが、それに決して引けを取らない。こちらは文化の祭典、向こうは野球の祭典ですが、本当に高校生が持つパワーというのはすごいし、力というものについては本当に大人以上の力があるんだということをつくづく思いました。本当に岡谷でこういった大会を開くことができ良かったなあと思いました。これを更にまた繋げていって高校生が夢や希望を持って学校生活を送って素晴らしい社会人となり、また岡谷に戻ってきて欲しいなあと強く願っているところです。

総文祭について何かご質問、ご意見等はございますか。

太田委員： 私も2日目にビデオメッセージを見させていただいて、たまたま時間がなくて2作品しか見られなかったんですが、それだけでも今お話があったようにものすごいレベルの高さと高校生の力を感しました。今回私も教育委員になって初めてこういうものがあるんだと存在を知って、それを非常に恥じました。ですので、スポーツの祭典は、甲子園を始めとして皆さん分かっているし、見ているし、接していますが、これは世間一般の大人達も見べきだなと思いました。若い人達がこれだけ頑張って、これだけのものができて、こういうことをやっているんだということを見なければ損だし、見なければいけないなあと感じましたので、今度岡谷に来ることは当分ないと思いますし、長野県に来ることもないと思いますけど、もうちょっと上手いこと全国にこういうものがあって、こういう高校生に接する機会があるんだということを発信しなければいけないなあということをあらためて感じましたので、また、これから反省会みたいなものがあると思いますので、是非そういうことを強く次の開催に向けて伝えていただければと思っております。よろしくをお願いします。

岩本教育長： 文化部のインターハイといってマスコミも大々的に取り上げてくれればだいぶ違うと思いますが、いずれにしてもこれで分かりましたので、太田委員さん言われるように注目していきたいなと思います。

それでは、次にその他ということで、事務局からお願いします。

○その他

- ・行事等について（各課）

＜各課より行事予定について説明＞

- ・その他

岩本教育長： それでは、事務局より次の開催予定についてお願いします。

＜次回開催日の調整＞

岩本教育長： それでは以上をもちまして、9月の定例教育委員会を終了とします。

終了16時10分

岡谷市教育委員会会議規則第23条により署名する。

平成30年10月9日

教 育 長

岩本博行

署 名 委 員

太田博久

署 名 委 員

藤森 一俊

調 製 職 員

吉澤洋人